

自然環境の4つの脅威

～ グリーン コンシューマリズムの重要性 ～

自然環境に対する消費者の姿勢は、矛盾していることが多いと言われています。アメリカでの調査によると、消費者の80%は、商品が環境に優しいかどうかで購買の決定に影響すると答えているものの、実際にリサイクル品や環境に優しい商品を絶対に買うと言い切る人は半数強しかいませんでした。特に若年層は、個人の購買行動では何も変えられないと考える傾向が強いという結果となりました。エコ製品の購買を促進するためには、まず消費者の見方や姿勢を変える必要があります。そのためには、自然環境における下の4つの脅威を意識しなければならないと考えられています。

1. 原材料の欠乏

地球の資源には、無限にあるもの、有限で再生可能なもの、有限で再生不可能なものがあります。枯渇しつつあるものもあり、賢く使うことが求められています。

「無限にある資源」→水、空気など

「有限で再生可能な資源」→森林、食料など

「有限で再生不可能な資源」→石油、石炭、プラチナ、亜鉛、銀など

2. エネルギー・コストの上昇

石油の供給は、世界経済にとって深刻な問題であり、原油価格の高騰により、代替エネルギーの必要性がいっそう高まっています。

「代替エネルギー」→太陽光、原子力、風力、電気（自動車）など

3. 公害の拡大

産業活動によって、自然環境が必然的にダメージを受けることがあります。有害な廃棄物をなくす努力が求められています。

「有害な廃棄物」→海洋への危険な水銀、土壌や食料に含まれるDDTなどの化学汚染物質、散乱する空きビンやビニール袋といったパッケージなど

4. 政府の役割の変化

政府の環境への関心とそれを推進する努力は国によって異なります。貧しい国々の大半は、資金が足りず、公害に対してほとんど手を打っていないのが現状です。より豊かな国々にとって、貧しい国の環境汚染対策を助けることは自らのためにもなりますが、残念ながら、豊かな国でさえ現在ではそれだけの資金はありません。